

製品開発プロセス

【0次試作】

最初の手作り品で関連部門と技術部門用に数台作ります、ソフトが介入した商品かによりシステムの大きさが変わりますが、基本動作状態で試作。

- ・生産部／製造技術部／品質部／技術部による検討会で生産性、サービス性、技術の課題が抽出されます。（0次検討会）
- ・抽出された課題により、基本設計の変更を要する項目が発生するケースもあります。
- ・これ等の問題点を解決すべく次のステップへと試作（1次試作）を進めます。

【1次試作】

関連部門へ複数台、計20～30台試作します、未だ金型品での試作は行いません。この時点で環境試験／安全規格に合致させます。

環境試験

- ・温度／湿度（保存／動作）試験
 - ・落下試験
 - ・静電／ノイズ試験
 - ・国内の場合＝電気用品取締法、輸出の場合＝各国の安全基準
- 1次検討会にて抽出された課題は手直し修正にて確認される、場合によっては再試作され、量産移行の確認を行い金型GOする。

【量産試作】

金型品を使用して100～200台、生産ラインにて行い最終的な調整／生産性を確認し、箱入れ倉庫入りまで行います。

【量産】

営業からの注文により、毎月生産台数が計画され生産していく。最終的に償却台数を達成して、利益の得られる商品であれば良いが私の経験では赤字モデル数の方が多かった記憶があります。